

## 第6回

# 下水道スタートアップチャレンジ

～新技術の導入を目指す地方公共団体の皆さまへ～

無料

## イベントの趣旨

今回の「下水道スタートアップチャレンジ」では、自社技術の下水道分野への適用可否を検討したい異業種企業と、実証のための下水道施設を保有している地方公共団体の皆さまとの連携・共創を目指します。前回の発表者4社に対し、地方公共団体の皆さまからご質問いただける場をご用意いたしました。

日時：令和3年11月4日（木）13時00分～17時30分

形式：対面・オンライン会議による打合せ形式

会場：株式会社三菱総合研究所 永田町本社（東京都千代田区永田町二丁目10番3号）

主催：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部（事務局：三菱総合研究所）

## ○ プログラム

	時間	発表者	発表内容
	13:00～13:10	国土交通省 ほか	開会挨拶・イベントの趣旨説明
①	13:10～14:00	Whole Earth Foundation	市民から収集する情報と人工知能の組み合わせでインフラ劣化を予測！
②	14:05～14:55	AC Biode（株）	焼却灰からフィルター製品を！
③	15:00～15:50	マイクロ波化学（株）	マイクロ波による 汚泥減容・メタン発酵効率化！
④	15:55～16:45	（株）アルガルバイオ	藻類活用による下水道資源化！
	16:45～16:50	国土交通省	閉会挨拶
	16:50～17:30		名刺交換・ネットワーキング

※①、③、④のセッション発表者は、来場予定です。ご来場いただけますと名刺交換などが可能です。

## ○ 申込要領

申込フォーム（<https://www.mri.co.jp/gesui-startup-6/>）から、事前申込制にて承ります。

申込期間：令和3年10月7日（木）14:00 ～ 11月2日（火）12:00

定員：30名（ご来場を希望される方）、900名（オンライン形式をご希望される方）

参加費：無料

## ○ 参加対象者

下水道関連業務に携わる地方公共団体の職員（新たな省エネ・創エネ技術等の開発に関心をお持ちで、日ごろ下水道施設の維持管理等に携わられている地方公共団体の皆さま）

### お問い合わせ先

主催：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課 担当：西郷進也、金井容秀 Mail：[kanai-y2s4@mlit.go.jp](mailto:kanai-y2s4@mlit.go.jp)  
事務局：株式会社三菱総合研究所 サステナビリティ本部 担当：高田一輝 Mail：[gesui-innovation-app@ml.mri.co.jp](mailto:gesui-innovation-app@ml.mri.co.jp)



## ○ 発表企業の詳細

### (1) Whole Earth Foundation



- 市民参加型でインフラ情報を収集するプラットフォームの構築を目指す
- ゲームアプリ「鉄とコンクリートの守り人」を用い、マンホール鉄蓋の劣化情報収集を実証中（渋谷区にて実証実績あり）
- 収集したデータを活用して、リアルタイム性の高い台帳情報整備が行えるだけでなく、マンホールや管路施設の劣化予測が可能

参考資料：<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/content/001418192.pdf>

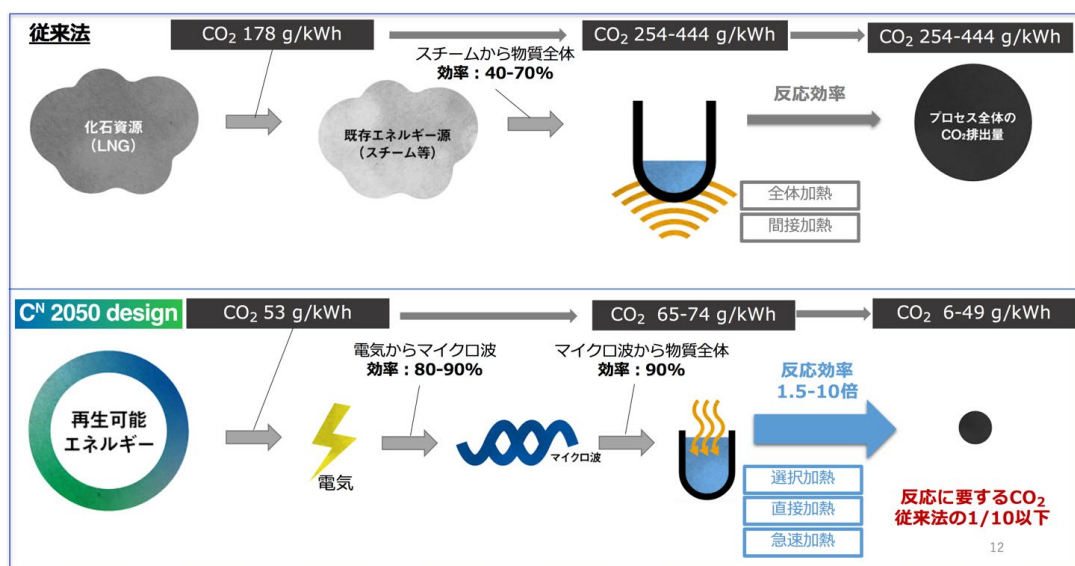
### (2) AC Biode株式会社



- 石炭灰、バイオマス灰などから、フィルター、土壌改質剤等を生産する技術を保有
- 下水汚泥の焼却灰にもリサイクル技術が適用できないかを検討中
- 下水汚泥焼却灰から、下水道水質改善のための吸着材をつくり、サーキュラーエコノミーを実現。埋立地までの運搬コスト削減や、埋立地逼迫などの課題に対応可能性あり

参考資料：<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/content/001418187.pdf>

### (3) マイクロ波化学株式会社

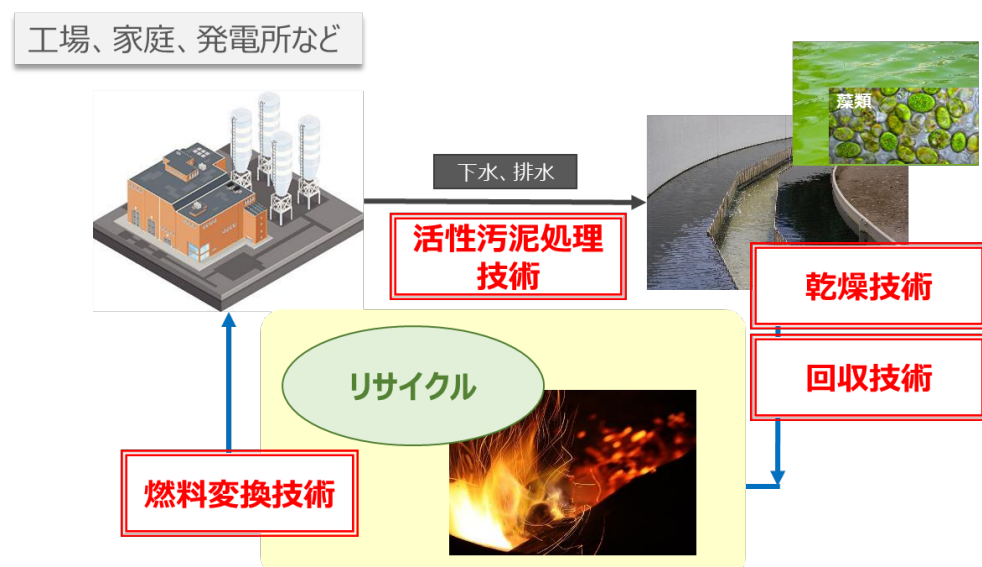


- 化石燃料を用いず、電気により加熱が可能な「マイクロ波」技術プラットフォームを保有
- 下水処理の汚泥脱水工程などにおいて、「マイクロ波」プロセスにより省エネ、短時間化、CO2排出削減が可能
- 「マイクロ波」によるメタン発酵前処理により有機物の可溶化が促進されCOD増大が可能



参考資料：<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/content/001418190.pdf>

### (4) 株式会社アルガルバイオ



- CO2吸収する藻類を活用した機能性素材・農業資材・畜水産飼料等の有価成分の生産技術を保有
- 下水・排水による藻類培養を通じて、環境コストが低い水質浄化と資源回収を両立させる
- ユニークな藻類ライブラリーを保持しており、様々な用途に最適な藻類株と培養製法の確立が可能

参考資料：<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/content/001418185.pdf>